

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年 8月 19日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2276600414
法人名	有限会社 ワイ・エイチ企画
事業所名	グループホーム サンシティとよだ
所在地 (電話番号)	静岡県磐田市豊田 35 0538-21-0101
評価機関名	セリオコーポレーション株式会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成20年5月10日

## 【情報提供票より】(平成20年04月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 12 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤	13 人, 非常勤 6人, 常勤換算 12.2人

### (2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,100 円	その他の経費(月額)	9,900 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 90,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	600 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,600 円			

### (4) 利用者の概要(平成20年 04 月 20 日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	2 名	要介護2	7 名		
要介護3	7 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.8 歳	最低	56 歳	最高	98 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	磐田総合病院・豊田えいせい病院・豊田診療所・豊田ファミリー歯科
---------	---------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

磐田市北部の近郊にあり、ホームの裏は田園となっており、のどかな風情がある。施設長はざっくばらんな人柄で、安定した職員との連携も良く、家庭的な雰囲気も漂っている。ホームの理念も浸透しており、家族アンケートの結果も良好で、職員の笑顔と柔軟な対応に感謝の声も聞かれる。今後は当初の計画通り運営推進会議を定期的開催し、地域密着型に相応しく、更に利用者・家族に喜ばれるホームへの発展の努力を期待したい。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	管理者・職員は外部の評価の意義をよく理解し、昨年の指摘事項は、殆ど改善されていた。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の意義をよく理解し、今回の自己評価票の作成においては初心に帰って職員全員で取り組み、1・2F夫々に検討し、その特徴が浮き彫りにされていた。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議は昨年の1月と今年の3月に開催されていた。最初は然るべき議題・メンバーで行われたが、当初計画されていた2ヶ月に1回の開催は難しいようである。ホーム・行政・近隣の呼吸が合わないと難しいものがある。利用者が地域でその人らしく生活するために、定期的開催できるような粘り強い働きかけが望まれる。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	相談は何時でも気軽に受け付ける体制にあり、重要事項説明書等に苦情・相談窓口が明記されており、ご意見箱も設置されている。サンシティとよだの新聞が発行され、ホーム全体の活動状況と共に家族の通信欄もあり、個別の報告もされている。また、変化があった時の連絡や来訪時の報告もこまめに行われており、ご意見はホームの運営に活かしている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	防災訓練には自治会の方にも参加してもらい、気賀神社の秋祭りには利用者も法被姿で参加したり、草刈・掃除等の奉仕活動にも参加し、地域との交流に努めている。豊田町北部15地区に毎月の新ホーム便りの回覧を依頼し、地域の理解が得られるよう努めている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域住民として安全・安心であきのこない生活が送れるよう、地域密着型に相応しい理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を誰でも目に付くところに掲示し、その実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	豊田町北部15地区に、毎月の新ホーム便りの回覧を依頼し、地域の理解が得られるよう努めている。気賀神社の秋祭りには、利用者もハッピー姿で参加したり、草刈・掃除等の奉仕活動にも参加し、地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己・外部の評価の意義をよく理解し、昨年の指摘事項は殆ど改善されていた。今回の自己評価票については職員全員で取り組み、1・2Fの特徴が浮き彫りにされていた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年の1月と今年の3月に開催されていた。最初は然るべき議題・メンバーで行われたが、当初計画されていた2ヶ月に1回の開催は難しいようである。	○	ホーム・行政・近隣の呼吸が合わないと感じるものがある。利用者が地域でその人らしく生活するために、定期的に行えるような粘り強い働きかけが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日常の相談は行っており、昨年9月より介護相談員を受け入れているが、共にサービスの質向上に結びつく取り組みは見られなかった。	○	ホーム・自治会・家族代表との話し合いは年1～2回行われており、そこから市町村と連携しなければならない事項を洗い出し、共に取り組む努力をされたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	サンシティとよだの新聞が発行され、ホーム全体の活動状況と共に、家族の通信欄もあり、個別の報告もされている。また、変化があった時の連絡や来訪時の報告もこまめに行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書等に苦情・相談窓口が明記されており、ご意見箱も設置され、何時でも気楽に受け付ける体制にある。今のところ苦情は出されていない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職を最小限にとどめる努力をしており、比較的安定している。異動の場合は分かる方には率直に話し、入居者の様子を観察しながら職員でよく話し合い、ダメージを最小限にとどめるよう努力している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常のOJTでの教育が行われ、外部研修への参加に機会も作っているが、職員のレベルに応じた研修計画は見られなかった。	○	機会があれば参加する姿勢にプラスして、レベル・経験に応じた年間研修計画を策定されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催の福祉施設やグループホームの会合に参加しているが、ネットワークを作り、勉強会や相互訪問を行うには至っていない。	○	忙しい現状は理解できるが、相互に理解し合いレベルアップを図る場作りの働きかけを期待したい。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	1年以内の入所者が5名ほど居り、事前に見学をして頂いている。急な入所や本人の見学が難しい場合は、写真などを準備したり、家族の話やアセスメントで今迄の暮らしぶりを理解し、徐々に馴染めるよう努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員も一緒になって空いているゲストルームの炬燵で昔話から学んだり、テレビや食事の話をしながら共に支え合って過ごしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の暮らしの中でのゆったりと利用者に向き合っている。何気ない行動や言葉から利用者の希望や思いを汲み取ったり、ご家族から何うなど把握に努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月一回フロアミーティングを開き、利用者個々の暮らし方について検討している。また、状況によっては日々話し合い、内容は介護計画書や申し送りノート・ミーティング議事録等に記載している。全員で情報を共有し、ケア計画が実践できるよう取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは6ヶ月ごとに行い、利用者と家族の同意のもと介護計画を作成している。また、利用者に変化がある時はその都度話し合い計画の変更をしている。	○	介護計画書は3ヵ月ごとに振り返り、見直しをすることを期待する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医へ受診する際の送り迎え付添いなど、希望に応じてホームが支援しており、柔軟性のある対応がされている。また、利用者の病状の急変時にも職員が付き添うなど臨機応変な対応がされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望する病院への受診を支援している。また、ホームの協力医療機関とはいつでも相談できる関係があり、適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時や利用者の変化に応じて本人・家族・かかりつけ医と話し合いの場を持ち、本人にとってよりよい終末期の暮らしが実現できるよう支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉掛けには十分に注意するとともに、個々の利用者の状態報告などは事務室で行ったり、人目を避けるなど個人のプライバシーを守る配慮がさりげなく行われている。個人の介護記録等は事務室で保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、ホーム内は自由に過ごせるようにしている。日々の会話の中で利用者の希望を察知し、希望に添えるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中や普段の会話の中でひとり一人の好みを聞き、献立に加えたりメニューを変更するなど、タイムリーに希望を取り入れるよう工夫している。職員と一緒にお菓子作りを楽しむ機会を作っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日行い、入浴時間など利用者一人ひとりの希望に添うように対応している。入浴を拒む方にはタイミングを見ながらさりげなく言葉かけを行い、入浴を楽しんでいただけるよう支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活習慣や持てる力に応じて野菜の皮むきや食器の片付け、洗濯物干しやたたみなど一緒に行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの裏は田園となっており、のどかな風情がある。日常的に散歩が楽しめるよう支援している。普段の何気ない会話から利用者の行きたいところを汲み取り、一緒に出かけられるよう計画している。また、4月には「桜めぐり」と称してドライブに出かけるなど季節に合った外出支援を行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠はしていない。また、エレベーターや階段は利用者が自由に行き来できるようにしている。目配り・気配りを心がけ、職員全員が鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は年一回、自治会と一緒にホームで実施している。実際の避難方法など利用者も一緒に参加して行っている。緊急通報訓練は年2～3回行うなど、職員全員の防災意識の向上に努めている		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者と食卓を囲み、同じ食事をいただくようにしている。一人ひとりの好みや摂取量、嚥下状態の変化に注意しながら、調理方法や味、量などの工夫をし、その方に必要な栄養や水分が摂れるよう支援している。	○	健康な暮らしを維持するために、食事量や栄養のバランス、水分確保に留意する事は大切である。定期的に管理栄養士など専門的な視点でのアドバイスを受けることでさらにバランスの良い食事を提供されるよう期待する。また、水分量も季節を問わず毎日記録されることが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員は明るく、笑顔で穏やかに言葉かけをしている。テレビの音や採光も適度である。職員の庭に咲いていたという花が食卓などいたるところに届けられ、季節を楽しむ雰囲気とともに職員の温かい心づかいが感じ取れる。1Fに設けられた畳のある居間は、自由に食事が出来るなど、我が家にいるようなゆったりとくつろげる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には利用者が安心して心地よく暮らせるよう、家族の写真や小物など馴染みのあるものを用意していただいている。入居後も本人の気持ちを随時家族に伝え、好みの品を用意していただくよう積極的に働きかけている。		